

プロジェクト名	ウガンダ北部における元子ども兵社会復帰支援プロジェクト
実施地域	ウガンダ共和国 グル県
実施期間	3年間／期生（2005年5月～継続中）
ターゲットグループ	元子ども兵士及びその家族／貧困層住民※
受益者数	①元子ども兵士91名及びその家族約350名、②貧困層住民50名【2008年6月現在】
プロジェクト目標	元子ども兵が社会復帰する為に必要な能力を身につけ経済的に自立すると共に地域住民との関係を改善しながらコミュニティーで安心して暮らせるようになる

※ 反政府軍に誘拐された元子ども兵の中でも拘束期間が長期にわたり帰還後も親や親戚をなくしている元少女兵(チャイルドマザー)及び障害を負って帰還してきた元少年兵などの社会的弱者を優先的な受益者として選定。貧困層住民は上記の元子ども兵が帰還している地域の貧困層の住民を優先的な受益者として選定。

## (1)プロジェクト実施の背景



【写真】LRAの拘束を逃れて帰還した元子ども兵たち

ウガンダ北部では1986年以降、政府軍と反政府軍(LRA: Load Resistance Army)の紛争が続いており、その影響で、これまで少なくとも2万人以上の子どもたちが誘拐され、政府軍との戦闘に駆り出されてきました。(ウガンダ政府発表によると誘拐された子どもの数は6万人に上るといわれている)。LRAに拘束されている期間、少年は危険な前線に送られる一方、少女は大人兵士からの性的虐待、強制結婚などを強いられるなどしており、LRAから帰還後も子どもたちは身体的、精神的な傷を負っていることが多く、また、元子ども兵は地元の村々での襲撃や新たな子どもの誘拐、ひどい場合は本人の肉親を殺害するなどの残虐行為にも加担させられてきており、帰還後、地域住民から加害者とみなされ憎しみの対象になることもあります。

特に、LRAの兵士との間にできた子どもを連れて帰還した元少女兵(チャイルドマザー)は、経済的に自立が困難な上に地域社会からの差別や偏見、女性に対しての暴力、HIVエイズなど様々な問題を抱え社会復帰が最も困難な状況にあります。

多くの場合、子ども兵は政府軍とLRAの戦闘の際に政府軍に保護されて帰還し、まず、軍が管轄するCPU(チャイルドプロテクションユニット)に一旦収容され、そこで衣服の支給や事情聴取を受けます。その後、レセプションセンターに送られ数週間のリハビリを経てコミュニティーへ帰還するのが一般的ですが、衣食住が満たされカウンセラーなどに手厚くケアされているセンターを出た後、経済的な問題や地域住民との関係など新たな問題に直面することが多く、センターを出た後の元子ども兵に対してどのような支援をしていくかが課題とされています。

[ウガンダ北部の現状についての詳細はこちら](#)



【写真】チャイルドプロテクションユニットに保護された元子ども兵



【写真】元子ども兵のレセプションセンター (GUSCO)

## (2)プロジェクトの概要

当会ではグル県の現地 NGO (GUSCO) が運営するレセプションセンターと連携し、GUSCO でリハビリを受けコミュニティーに帰還した元子ども兵を対象に、3年以内に自立することを目標にプロジェクト開始から1年半(前半期)はフルタイムで職業訓練などを行いながら、その間の本人とその家族の食費や医療費など BHN 支援を行っています。プロジェクトの後半期はパートタイムでの訓練を実施しながら、BHN 支援からマイクロクレジットに切り替え、外部からの依存を減らし受益者の収入向上活動を促進しています。

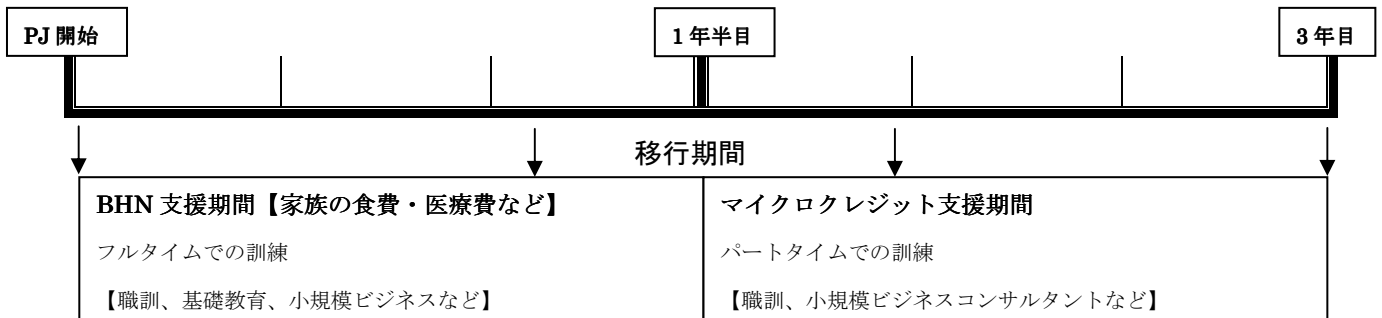
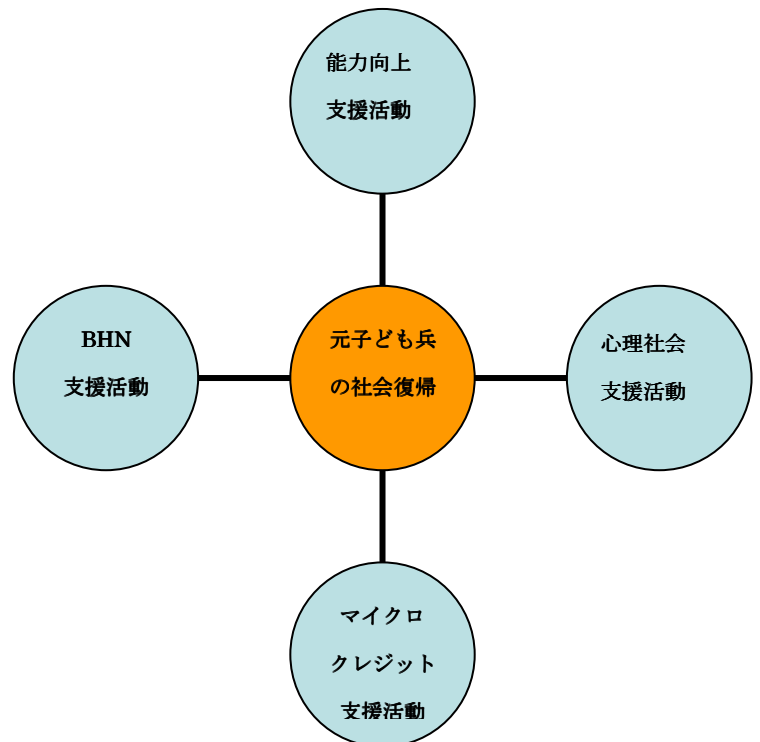


図1 プロジェクトのフロー図

フルタイムの訓練期間は、職業訓練に加え、基礎教育、平和教育、プライマリーヘルスケア、小規模ビジネスの指導など元子ども兵の社会復帰に必要な科目をカリキュラムに組み入れ、プロジェクトの目標達成の為に下記の4つの活動を通して包括的にサポートしています。

また、元子ども兵と近隣住民の和解促進、関係改善の為に貧困層の近隣住民も受益者として受け入れ、元子ども兵の受益者と共に平和教育や和解促進の為にWS、小規模ビジネスの指導、マイクロクレジットの支給を行っています。



### (3)プロジェクトを構成する4つの活動

#### ①BHN 支援活動

プロジェクト前半のフルタイム訓練期間中、受益者とその家族の状況に応じて毎月の食費と医療費をクーポンで配布しています。そのクーポン券は受益者各自の近くの食料品店、ローカルクリニックでのみ使えるよう当会と契約しており、ローカルクリニックでケアできない病気や怪我は総合病院や HIV エイズ専門の機関で診療できるよう調整しています。また受益者の状況に応じて、(チャイルドマザーの)子どもの学費、家賃などの支援も行い、訓練期間中、受益者が訓練に集中できるよう本人とその家族の生活をサポートしています。



【写真】受益者の近隣の食料品店でクーポン券使用の為に契約を交わす店主(左)、テラルネッサンス現地スタッフ(中央)、受益者(右)



【写真】当会の社会復帰支援センターでの給食を作っている様子

[BHN 支援活動の詳細はこちら](#)

#### ②能力向上支援活動

受益者が収入向上活動を始める為に必要な職業技術、識字能力、計算能力などの能力向上の為に訓練をしています。現在、洋裁、手工芸、服飾デザイン、木工大工の4つの職業訓練科目と基礎教育(識字、算数、英語)やプライマリーヘルスケアのクラスを開講し、カリキュラムの約半分は職業訓練科目で構成されています。



【写真】職業訓練の様子 (服飾デザインクラス)



【写真】基礎教育クラスの様子

[能力向上支援活動の詳細はこちら](#)

### ③心理社会支援活動

受益者個別に悩みやトラウマやその程度も様々なので個別カウンセリングとグループのクラスを開講し、クラス活動では音楽や伝統ダンスなどを行っています。また、週に一回、元子ども兵とその近隣住民を対象に平和教育の授業を開講しアチヨリ民族の伝統的な和解方法などについて共に学ぶ機会を提供すると共に、受益者の状況に応じて伝統的儀式を通して精神的な安定を図る取り組みも行っています。



【写真】アチヨリ民族の伝統ダンスを踊るチャイルドマザーたち

【写真】元少年兵に対しての伝統儀式の様子

[心理社会支援活動の詳細はこちら](#)

### ④マイクロクレジット支援活動

小規模ビジネスのクラスを週一回開講し、貯蓄の重要性、ビジネスの基礎的な知識などマイクロクレジットを使って収入向上活動していくために必要な事項を訓練しています。この活動では元子ども兵の受益者に加え、各自の近隣の貧困層の住民をパートナーとして受け入れ共に訓練を受けてもらっています。支援開始から1年半を目処にマイクロクレジットを元子ども兵と地域住民のパートナーへ供与し、収入向上活動を促進し、その間は定期的にビジネスコンサルタントを行っています。



【写真】農作物、炭の小売業などで収入を向上し始めた受益者



【写真】洋裁技術を使って収入を向上し始めた受益者

[マイクロクレジット支援活動の詳細はこちら](#)